

CTC

アサヒグループの災害対策環境を構築

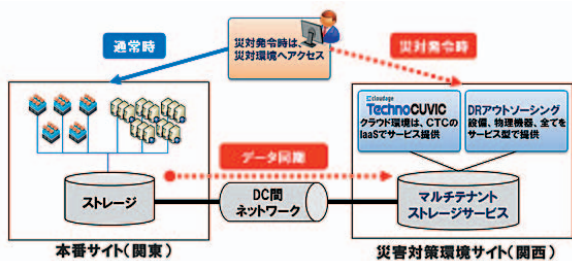
～「TechnoCUVIC」を利用して短期間で構築～

伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）は、アサヒグループホールディングス（以下、アサヒグループ）向けに、CTCの自社クラウドサービス「TechnoCUVIC」と、物理サーバ・ストレージを組み合わせた災害対策環境を構築した。災害対策環境については、阪神淡路大震災の際にノンストップでサービスを提供したCTCの神戸コンピュータセンターが選定された。

アサヒグループでは、東日本大震災を契機に、IT部門とCTCのグループ会社、アサヒグループ各社にITサービスを提供するアサヒビジネスソリューションズを中心に事業継続に関するシステム検討を実施した。利用者が本番システムと変わらないユーザーインターフェースで、且つ可能な限りコストを圧縮し構築期間の短縮を図れることを方針に打ち出した。

CTCは自社のパブリッククラウドサービスであるTechnoCUVICを活用し、高速ストレージサービスとデータセンター間を接続するネットワーク通信網サービスを含めたCTCのDRアウトソーシングサービスを最大限に活かした提案で、アサヒグループの災害対策環境を短期間で実現した。

CTCは今回の災害対策環境の提供により、アサヒグループの首都圏における大規模災害発生時に飲料水などの安定供給に貢献できるものと考えている。



アサヒグループ災害対策環境のシステム構成

伊藤忠テクノソリューションズ TEL：03-6203-4100

NEC

東京都墨田区教育委員会へ タブレットPCを納入

NECは、東京都墨田区教育委員会へ、Windows8搭載、12.5型タッチパネルを採用したタブレットPC「VersaPro タイプVZ」を300台納入した。同教育委員会は、本年4月に本タブレットPCを区内の小中学校36校のうち7校に配布し、各学校で随時利用されてきたが、教員向けのICT利用研修を経て、授業での本格的な利用を順次開始する。

タブレットPCが配布された各小中学校では、例えば、体育でマット運動を撮影しその場で生徒に見せて指導するなど授業で活用したり、また、授業準備のために先生が職員室へ持ち込んで、教材作成や先生どうしでのディスカッションにも活用している。

同教育委員会は、学校のパソコン教室にあるPCの更新にあたり、WindowsXPのサポート終了を視野に最新機種を導入を検討し、パソコン教室から普通教室へ持ち出して利用する際の持ち運び易さなどを考慮してタブレット型の端末を検討してきた。

また、同教育委員会は、導入するタブレット端末として、複数の生徒が見やすい大画面であること、他の教室へ持ち出しやすい1kg以下の軽量であることを最も重視していた。さらに、区内全校に導入済みである校内の業務システムなどの親和性やセキュリティ確保の観点からWindows OSであること、パソコン教室でのPC操作実習や普通教室で電子黒板やプロジェクタなどと接続するため、キーボードやマウスと接続ができ、有線LANや外部ディスプレイ用コネクタを装備する高い拡張性があること、利用シーンに応じた手書き入力ができることも重視していた。

今回、これらの全ての要件を満たすタブレット端末として、VersaPro タイプVZが採用された。

NEC TEL：03-3798-7856

アシスト

VICSセンターがBIツール「QlikView」と地図連携ソリューション「GeoQlik」を採用

アシストが取り扱う連想型高速インメモリBIツール「QlikView」と、QlikView専用の地図連携ソリューション「GeoQlik」が、ドライバーのニーズに即した道路交通情報を提供する一般財団法人道路交通情報通信システムセンター（以下、VICSセンター）の地図情報分析基盤として採用された。

アシストでは、顧客企業の地理的な分析ニーズに対応するため、2012年12月よりクリックだけの簡単操作で高度な分析を実現するQlikView専用の地図連携ソリューションGeoQlikの取り扱いを開始した。

VICSセンターはFM多重放送やビーコンを通して、渋滞や交通規制などの道路交通情報をカーナビなどに配信し、快適で安全なドライブをサポートしている。配信された情報はログとして蓄積され、その膨大なログデータを分析して、より精度の高い情報配信やサービスレベルの向上に努めている。

従来は、限られた情報をもとに担当者が独自の手法により分析を行ってきた。そのため、分析業務の属人化や、データの加工や集計処理に時間がかかるなどの課題が生じていた。そこで、より多くの情報を効率良く分析すること、また、属人的な手法でなく、誰もが分析、把握できることを目指して、VICSセンターはQlikViewとGeoQlikを採用した。

VICSセンターの持つ情報はデータ、位置（地図）、時間という3軸を持っていることを特徴としており、それらの情報をQlikViewおよびGeoQlikが視覚的に表現できたことが採用の決め手となった。QlikViewの多彩な表現力により、天候等の要因による様々な情報提供状況をより鮮明に把握することができるようになった同センターでは、GeoQlikを活用した位置情報と連動する分析にも取り組んでいる。

アシスト TEL：03-5276-5850

ALSI

大阪府警察本部と連携して偽サイト被害防止取り組みを強化

アルプス システム インテグレーション（以下、ALSI）は、大阪府警察本部と連携し、偽サイト被害防止対策に協力することを発表した。今回の取り組みは、大阪府警察本部から偽サイトのURLデータの提供を受け、ALSIのグループ企業であるネットスターのWebコンテンツ・データベースサービスに反映するものだ。提供されたURLデータは、ALSI製品や携帯電話向けのフィルタリングサービスなど同サービスを搭載する全ての製品・サービス向けに提供される。

大阪府警察本部では、実在するサイトに似せた偽サイトでの被害が後をたたないことから、偽サイトへの対策を強化している。本年5月からは、同本部が得た偽サイトのURL情報をセキュリティ企業と共有し、各社の製品・サービスの利用者が誤って偽サイトにアクセスしないような対策を行なっている。

一方、ALSIのグループ企業であるネットスターでは、これまでも独自にサイトURLの収集とカテゴリ分類を行ない、ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺サイト、不正攻撃サイトなどの悪質サイトのURL情報の充実と提供に積極的に取り組んできた。また、設立当初から関係各機関との連携を積極的に実施し、悪質サイトのURL情報登録強化に取り組んできた。

そして今回、大阪府警察本部では、偽サイト被害防止対策の第2弾として、ALSIほか2社と、既に協定を締結している主要なセキュリティソフトベンダー7社の合計10社で協力体制を構築する。大阪府警察本部の偽サイト被害防止対策に協力することで、ALSIが提供する「InterSafe WebFilter」等のフィルタリング製品をはじめ、ネットスターのWebコンテンツ・データベースサービスを搭載する全てのフィルタリング製品・サービスに配信される。

アルプス システム インテグレーション
TEL：03-5499-8043